

入学試験問題

国語

100点満点（50分）

（注意）

1. 問題冊子及び解答用紙は指示があるまで開かないこと
2. 問題は一～四、解答用紙は別紙
3. 試験開始後、問題冊子表紙・解答用紙に受験番号を記入すること
4. 試験終了後、問題冊子・解答用紙ともに回収

受験番号

一、次の文章を読んで後の問いに答えなさい。(字数指定問題において、句読点や「」は字数に含むものとする)。

現代人は「関係を切る」ことによって「便利」な生活をしようと思いきりすぎているだろうか。(中略)

しかし、関係を切ることばかり熱心になりすぎて、自分はまったくの孤独であることにふと気づいたとき、不安でたまらなくなるのではなからうか。病気になるれば医者がいる。腹が減れば食堂に行けばよい。【ア】このような言い方をする限り、われわれは孤独ではなく、便利に生きている。しかし、^①そこに生じる「関係」は薄いものではなからうか。

ある父親が不登校の子どもに悩んだあげく、「現代は科学が発達し、ボタンひとつ押せば人間が月まで行けるのに、うちの子を学校に行かせるようなボタンはないのですか」と言われた。【A】子どもを登校させる「^②科学的方法」はないのか、というわけである。この発言は現代に生きる人間の考えを

^③端的に示していて、深く考えさせられたのである。【イ】
この父親が言うとおりに、科学・技術の発展によって、人間は実に多くのことを可能にした。その方法の凄^{すご}いところは、それが普遍性をもっていて、誰でもいつでも指示されたとおりのことをすると、結果はちゃんと望みどおりに出て来ることである。これが「ボタンひとつ押すと、月まで行ける」ということになるのだろう。しかし、科学・技術の方法は、自分の取り扱う対象を自分から切り離し、客観的な「もの」として対象化することによって成立する。自分から切り離したものとして観察し、操作するので、それは誰にでも通用する普遍的な方法を生み出してくるのである。

このような方法が便利なので、人間は「もの」に対してのみならず、^④人に対してもこのような方法をできるだけ多く使うようになった。【B】、交通事故のときの保険などがそうである。何か事故がある度に、その関係のある者がすべてを話し合^{たひ}ってゆくとしたら、まったく大変である。そこで、ルールをつくり、専門の人間が代わりに話し合うことによって解決してゆく。【ウ】そのことによって、人間関係に伴う「わずらわしさ」から解放される。

【C】、それに見合うだけのお金は支払わねばならない。

【エ】つまり、人間関係のわずらわしさをお金で解決したのである。これで万事うまく行っているだろうか。人間関係のわずらわしさを解消した

分だけ、われわれは人間関係の稀薄きはくさに悩んでいないだろうか。不登校の子どもをもった親で、「この子のために何かよい方法や施設があれば、お金はいくらでも出しますから」という人がある。お金は何でも解決できる」「**②**」**③**」と思われる。しかし、お金をいくら積んでも子どもは登校しない。

西洋の場合は伝統的な**※**個人主義だから、その冷たさを埋める方法をボランティアなどと併あわせて小さいころから勉強してゆくけれど、日本の個人主義は全くの**※**利己主義でしょう。「**オ**」困るのは、**⑤**若い人が自分たちは西洋的な生き方をしていて思い違いをしていることなんですね。親子の電話とか手紙の回数は、ヨーロッパの方が日本よりはるかに多いんです。彼らの個人主義の伝統が手紙や電話を必要とするわけで、個人主義で生きてきた者同士は、そういう方法でないとつながりようがない。日本人は、そんなことしないで「つながって」きた伝統があるから、手紙や電話に頼らない。これから、日本的なつながりも切れるし、かといって電話もかけない、手紙も書かない、全く冷たい人が出てくる恐れがあるわけです。新しい「つながり」方をどうするか、大きい問題だと思います。

⑥日本と西洋の人間関係のあり方には違いがある。日本は「察し合う」のがベースだ。こうした関係はわずらわしい。**D**、わずらわしさを捨てる人と人間関係は稀薄になる。西洋人は他人の考えを聞き、自分の考えをはっきりという。こうした関係の中から真の友情が生まれる。日本人は定年後の付き合いは少ないが、西洋人は退職しても付き合いを続ける。ただ、西洋流だと、わずらわしきの代わりに寂しさを引き受けなければならない。年を取れば、若いころと同じように生きていけない。体力も衰えるから、若いころと豊かさの意味が変わる。家族関係はもちろんのこと、どんな人間関係の中で生きるか、を考えなくてはならない。

河合隼雄『「人生学」ことはじめ』より

語注

※個人主義：ひとりひとりの人間の自由と独立を重んじる考え方

※利己主義：自分の幸福・利益・主張などを第一とする考え方

問一、A Dにあてはまる語として最も適当なものを次のア～エより選び、それぞれ記号で答えなさい(同じ記号は複数回使用してはならない)。

- ア、ただし イ、たとえば ウ、つまり エ、しかし

問二、——線部①「そこ」という指示語がさしている内容を本文中の語句を用いて二十字以内で答えなさい。

問三、——線部②「科学的方法」の特徴(凄いとこ)について、説明した次の文の空欄を補うのに最も適当な三字の語句を本文中より抜き出して、それぞれ答えなさい。

自分の取り扱う対象を一な「もの」として観察し、操作するので、二をもっている。」。

問四、——線部③「端的」とはどういうことか。その説明として最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

- ア、はなはだしくかたよった様子。 イ、はっきりと要点をとらえる様子。
ウ、遠回りで角が立たない表現。 エ、強調するため極端に述べる表現。

問五、——線部④「人に対してもこのような方法をできるだけ多く使うようになった」とあるがその結果どうなったのか、本文中の語句を用いて十五字以内で答えなさい。

問六、「a」に入る最も適当な言葉を、本文中より三字で抜き出して答えなさい。

問七、——線部⑤「若い人が自分たちは西洋的な生き方をしてい」と思っている」とはどういうことか、最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

- ア、ボランティアをしていることで、自分が近代的な自立を実現していると思ってしまうこと。
イ、自分の人生を思い通りに生きるためには、他人を利用することも必要だと考えていること。
ウ、一人の時間を大切にするあまり、他人と全く関わりを持たないで生きていこうとすること。
エ、個人の自由を大切にしているつもりで、わずらわしく思う家族や社会とのつながりを切ること。

問八、——線部⑥「日本と西洋の人間関係のあり方には違いがある」について、どういう違いがあるのか「と」という違い。」に続く形で、本文中の語句を用いて四十字程度で答えなさい。

問九、本文の内容と合致するものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア、われわれは西洋的な生き方をただまねるのではなく、「科学的方法」により合理的で理性的な生活を追い求めていくべきである。

イ、われわれは人間関係のわずらわしさをお金で解決してきたが、わずらわしさの代わりに寂しさを引き受けることになった。

ウ、われわれは便利に生きようとするだけではなく、どのように社会や他人とつながっていくべきなのかを考えなくてはいけない。

エ、われわれは年を取っていくにつれ、人間関係が稀薄にならないように手紙や電話でつながりを持ち続けて行く必要がある。

問十、本文中には次の部分が抜けている。この部分が入る最も適当な箇所を本文中の【ア】【イ】【オ】より選び、記号で答えなさい。

二十年も以前だと、団地に住んでいる人は団地内の清掃を分担したり当番をきめたり、そのために人間関係でゴタゴタしたものである。今では全員が公益費を払うことによって、そんなことは解決済み。

二、次の古文を読んで後の問いに答えなさい。なお、筆者は弟子の曾良とともに旅をしている俳人である。

(字数指定問題において、句読点や「」は字数に含むものとする)。

那須の黒羽といふ所に知る人あれば、これより野越にかかりて直道を行かんとす。はるかに一村を見かけて行くに、雨降り、日暮る。農夫の家に一夜を借りて、明くれば、また野中を行く。そこに野飼の馬あり。草刈る男に嘆きよれば、野夫といへども、さすがに情しらぬにはあらず、「いかがすべきや。①されども、この野は縦横にわかれて、うひうひしき旅人の道ふみたがへん、②あやしうはべれば、この馬のとどまる所にて馬を返し③たまへ」と貸しはべりぬ。小さき者二人、馬のあと慕ひて走る。一人は小姫にて、名を「かさね」と言ふ。聞きなれぬ名の④やさしかりければ、

かさねとは八重撫子の名なるべし

曾良

やがて人里に至れば、あたひを鞍壺に結び付けて、⑤馬を返しぬ。

語注

※野越にかかりて … 野を横断して

※直道を行かんとす … 近道を行こうとする

※見かけて … 目当てにして

※野飼 … 「草刈る男」が野外につないで草を食わせている馬

※野夫 … 教養のない田舎の人

※いかがすべきや … どうしたらよいか

※うひうひしき … この土地に初めての

※小姫 … 童女

※鞍壺 … 鞍のくぼみ、人の乗る部分

問一、——線部①「情しらぬにはあらず」、②「やさしかりければ」のここでの意味として最も適當なものを次のア、イより選び、それぞれ記号で答えなさい。

① ア、思いやりがないわけではない

イ、情趣がないわけではない

ウ、人の気持ちが理解できない

エ、風流心のもちようがない

② ア、粗野であったので

イ、つらく感じられたので

ウ、はかなく感じられたので

エ、優美であったので

問二、——線部①「たまへ」を現代かなづかい(ひらがな)に直しなさい。

問三、——線部①「されども」とはどういうことをいうのか、最も適當なものを次のア、イより選び、記号で答えなさい。

ア、知恵を貸すことはできないけれども

イ、家に泊めることはできないけれども

ウ、草を刈ることはできないけれども

エ、道案内はできないけれども

問四、——線部①「あやしうはべれば」について、

1 「心配ですのぞ」という意味であるが、なぜ心配なのか、三十五字以上四十字以内の口語で答えなさい。

2 「あやしうはべれば」の後に省略されている内容を次のア、イより一つ選び、記号で答えなさい。

ア、馬に乗って行って

イ、馬の後を走って行って

ウ、馬に荷物をあずけて

エ、馬に子どもを乗せて行って

問五、「かさねとは」の句について、

1 句中「八重撫子」の「撫子」は「尾花おばな（ススキのこと）」や「桔梗ききょう」「萩はぎ」などととも「七草」の一つとされている。
どの季節の花か、季節名を漢字で答えなさい。

2 1で答えたような、句の中で季節を表す語を何というか、漢字二字で答えなさい。

3 句の内容を踏まえて、小姫（童女）の名を漢字で書くとするばどのような漢字をあてられるか、一字で答えなさい。

問六、——線部③「馬を返しぬ。」とあるのはどういうことか、最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

ア、謝礼を鞍壺に結びつけ人に頼んで馬を連れて帰ってもらった。

イ、子ども達に駄賃をあげて馬を連れて帰ってもらった。

ウ、草を刈っていた男へのお礼の金を添えて馬だけを返した。

エ、人里に着いたという報告の手紙を添えて馬だけを返した。

問七、本文の説明として最も適当なものを次のア～エより選び、記号で答えなさい。

ア、草を刈っていた男に道を尋ねたのをきっかけにして、田舎にはふつりあいな高貴な少年と出会った。

イ、雨に降られ日も暮れて農夫の家に泊めてもらったが、翌日も旅のつらさを味わってばかりだった。

ウ、知人の家を探そうとして道に迷ったが、農夫の親切にふれ、旅の風情を感じて曾良が句を作った。

エ、黒羽への道のりは遠く天候も悪かったが、草を刈っていた男の親切や童女との出会いに心が和んだ。

問八、本文は、江戸時代に著された俳諧紀行文である。作者は江戸を出て奥州、北陸を経て大垣にいたる旅を多くの句をまじえて記している。

作者と作品名の組み合わせとして適当なものを次のア～エより一つ選び、記号で答えなさい。

ア、（作者）藤原定家 （作品名）新古今和歌集

イ、（作者）井原西鶴 （作品名）世間胸算用

ウ、（作者）松尾芭蕉

（作品名）奥の細道

エ、（作者）小林一茶

（作品名）おらが春

三、次の文章を読んで後の問いに答えなさい（同じ記号を複数回使用してもよいこととする）。

長岡市の大空襲。少しくり返すが、父はB 29の襲来と焼夷弾しょういだんの投下を見て、夜をぬって会社へ自転車走らせ。そして①燃える火の中、運よく無事に戦火を逃れたわが家へ、家族の待つ家へ急ぎ帰って来たのだった。

「みんな無事か」

私たちは②いったん郊外へ走って逃れ、百機を超えるB 29の飛び去るのを見て、それぞれ家へ戻って③来たのである。

父は会社の責任ある立場にあつたからまずそこへ走つたのだが、④平たく⑤言へば職場を優先し、家族を母に委ねたのである。家族より会社、だったのである。

——男なら当然だろ——

戦時の教育を受けた小学生はそう思った。

——今なら、どうか——

もう⑥あんな惨事は⑦起きないことを願っているが、このテーマは現在の一般論としてもむつかしいところでしょうね。

父についての思い出は、終戦後、確か中学三年生のとき、長岡から東京へ……東京見物へ連れて来てもらった。うれしかった。

そのころ私の家は長岡と東京にあり、私は小学四年まで杉並区で過ごし、⑧疎開して長岡へ、そこで中学を卒業して東京へ舞い戻った、という事情である。

だから東京は初めてではなかったが、小学生の昔と中学生は⑨ちがう。時代も戦中と戦後と著しく異なっていた。

銀座でアイスクリームと天ぷらを食べた。握り鮓にぎらずしを初めて立ち食いで食べ、これがうまいのなんの、父が「いくらでも食べていいぞ」と言うから、その

通り食べたのだが、

——お父さん、ずるいよ——

あとで母に「高たかしのやつ、見さかいなく食べやがって」と嘆いた⑩らしい。

阿刀田高『私が作家になった理由』より

問一、——線部①～⑤について、その単語の品詞名を次のア～コより選び、それぞれ記号で答えなさい。

ア、名詞 イ、動詞 ウ、形容詞 エ、形容動詞 オ、副詞

カ、連体詞 キ、接続詞 ク、感動詞 ケ、助動詞 コ、助詞

問二、——線部①～⑤の動詞の活用の種類を次のア～オより選び、それぞれ記号で答えなさい。また、その活用形もそれぞれ正しい漢字で答えなさい。

ア、五段活用 イ、上一段活用 ウ、下一段活用 エ、カ行変格活用 オ、サ行変格活用

四、次の①～⑩について、——線部のカタカナは漢字に直し、漢字はひらがなで読みを答えなさい（なお、送りがなは不要とする）。

① 日々ケンヤクして貯蓄にはげむ。

② ヨクヨウをつけて話す。

③ 計画のヨウコウを発表する。

④ 川面に落ち葉がタダヨウ。

⑤ ユズり合いの精神が大切だ。

⑥ 将来を囑望される少年。

⑦ 廉価な商品が大量に出まわる。

⑧ 父は温厚篤実な人だ。

⑨ 新分野への進出を企てる。

⑩ はやる仲間に自重を促す。

— 以下余白 —